新潟をひとつにするのはスポーツだ

定価850円

NIIGATA Sports Magazine

新潟スポーツマガジン スタンダード

Standard

2018 December-2019 January

[12・1月] Vol.2

新潟 NIIGATA

全新潟が
ドラフト会議に
湧いた日

鈴木裕太
知野直人
漆原大晟

全国大会進出
頂点への道を往く
高校生たち

ラグビー、バレーボール、
バスケットボール、駅伝

高校サッカー特集
新潟進撃
イレブンの咆哮

全国高校サッカー新潟県大会
男女48チーム紹介

Standard Eyes
新潟から
未来を創れ

Be a challenger.

挑戦者であれ

NIIGATA Sports Magazine
Standard 新潟スタンダード
新潟スポーツマガジン
2018 12 - 2019 1 CONTENTS

004 **Be a challenger.** 挑戦者であれ
全新潟がドラフト会議に湧いた日
鈴木裕太／知野直人／漆原大晟

012 全国大会進出
頂点への道を往く高校生たち
ラグビー 新潟工業高校
バレーボール男子 東京学館新潟高校
バレーボール女子 長岡商業高校
バスケットボール男子 開志国際高校
バスケットボール男子 帝京長岡高校
バスケットボール女子 開志国際高校
駅伝男子 開志国際高校
駅伝女子 新潟産業大学附属高校
駅伝女子 新潟第一高校

030 全国高校サッカー新潟県大会
新潟進撃 イレブンの咆哮
男子サッカー ベスト4の激戦
準決勝 北越高校vs新潟明訓高校
準決勝 帝京長岡高校vs日本文理高校
決勝 帝京長岡高校vs北越高校
女子サッカー県代表校の素顔
帝京長岡高校
開志学園JAPANサッカーカレッジ高等部

042 全国高校サッカー新潟県大会出場
男女48チーム選手名鑑

062 Standard Eyes
新潟から未来を創れ
高橋夢人（ゴルフ）
中条ラグビースクール（ラグビー）
岩瀬照（自転車）
矢村健（サッカー）
石崎慶祐（競泳）
美遠さゆり（卓球）
新極真会新潟支部（空手）
ブルボンウォーターポロクラブ柏崎（水球）
内藤祐希（テニス）
ジェス新潟東（サッカー）

085 We are アルビレックス
アルビレックス新潟
片渕浩一郎監督インタビューほか

096 NIIGATA SPORTS FLASH
バスケットボール3×3
日本選手権新潟県大会リポート

連載
001 S-motion Hoppies 此村大毅
060 Athlete FILE 高野万優
101 I LOVE SPORTS
104 次号予告

S-motion スタンダード・モーション

年間ベストイレブン&得点王 タイで勝負する侍ストライカー

此村大毅（このむら・だいき）
タイプロリーグサッカー選手
1990年生まれ、新潟市北区出身。幼少期より地元サッカークラブに所属し、新潟市立高志高サッカー部を経て、東京国際大に入学。卒業と同時に2013年タイのプロサッカーチーム「カセムパンディットFC」に入団。チームを移籍しながら活躍を重ね、2018年は「WUナコンシーユナイテッド」に所属。同年タイ3部リーグ年間ベストイレブン、得点王（15ゴール）。子供のころから父親に説かれてきた「努力に勝るものはなし」を座右の銘とする。活躍を支える奥様も新潟市出身。178㎝、72㎏、ポジションはFW。

運命は、何が起こるか分からない。大学進学後、ケガがもとで一度はサッカーの道を諦めたが、大学4年の夏休み、旅行先のタイでプレーしたストリートサッカーがきっかけで現地プロチームへの入団が決まる。しかし入団直前にチームは解散。「でも一度受かったわけだし、これはチャンスだ」と再びタイに飛んで以来、現地を拠点に日々奮闘している。「言葉や食生活はもちろんサッカースタイルも違う。外国人選手は即戦力の扱いなので、結果が全て。できて当然、できなかったら簡単にクビになるタフな世界です。でも、結果にこだわることはプロとして何よりも喜びです。経験を積んで、近い将来Jリーグでプレーできたら最高です」。2018年はタイ3部リーグ(T3) で年間ベストイレブン選出、得点王。夢の実現のために、来季はさらなるステップアップを目指す。

撮影◉岩橋由希子　文◉丸山智子

Standard Special Interview

全新潟がドラフト会議に湧いた日

2019年、プロ野球界に3人の選手が加わる。10月25日のドラフト会議で指名された東京ヤクルトスワローズ6位の鈴木裕太投手(日本文理高校)、横浜DeNAベイスターズ6位の知野直人内野手(新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ)、オリックスバファローズ育成1位の漆原大晟投手(新潟医療福祉大学)。実力を磨いて幼いころからの夢を叶えた。同時に実力勝負の世界のスタートラインに立つ。

挑戦者であれ

Be a challenger.

東京ヤクルトスワローズ 新人選手選択会議6位

鈴木裕太

Yuta Suzuki

投手／日本文理高校

撮影◉嶋田健一

東京ヤクルトスワローズ（以下ヤクルト）6位指名の日本文理・鈴木裕太投手は新潟県高校野球界最速150キロを記録した剛腕。同世代の甲子園出場組にライバル意識を持ち、プロでの大成を目標に掲げている。

―ドラフト会議後、指名あいさつ、仮契約と新潟での「行事」を終えて、プロ入りの準備が本格化すると思います。

「指名のあいさつがあった後、ヤクルトの櫃渕聡編成部次長さんからは『投げておくように』と言われました。キャンプが始まってからいきなり本格的に投げると、ケガをするので、キャッチボールや投球練習はできるときにしておくように、と。ランニングや体幹のトレーニングは続けているので、そこに加えてやっていくつもりです」

―プロに行くことに不安は。

「付いていけるかな、という不安や、僕は寮生活をしたことがないので、どんな感じなのかな、という不安はありますが、慣れてしまえば大丈夫かなと（笑）。最初は緊張するかもしれませんけど」

―あらためて、ドラフトの当日はどんな1日でしたか。

「子どものころからの夢でした。それが叶ったという思いと、スタートラインに立ったんだな、と感じた日でした。指名を待っている時は不安でしたが、指名された時は、うれしいというよりホッとしました。自宅に帰ってからはネットで自分の名前が載っているのを見て、うれしくなりました」

―ホッとした、というのは、指名される、という自信があったから。

「中学時代から期待していただいて、高校に入ってからも早い時期から試合に出させていただきました。だから、プロに入りたい、というのと同時に、プロ入りしなければ、という気持ちにもなっていました。自信というより、そっちですね」

―プロ側の目は意識していましたか。

「夏の県大会は『甲子園に行って活躍したら、ドラフトでは上位で指名されるかも』という気持ちはありました（笑）。あと高校日本代表に入りたいと思っていたんです。甲子園で頑張ることがチームと自分のアピールになると。だから県大会4回戦で新潟高校に負けたときは本当に悔しかったです。自分が打たれて負けてしまった。泣かないようにはしていたんですけど、家に帰って、1人になったときは泣いてしまいました」

―プロ入りへ、前向きになれたきっかけは。

「県大会の後、何球団かスカウトの方が来てくださって。甲子園に出られなくて、プロに行けるのかな、と不安になっていたんですけど、期待して見てくれているんだと感じました。そこであらためて行きたいと思うようになりました。練習も開始しました。スカウトが見に来るときにアピールできるように、というのが励みになりました」

―ここまで、自分の願いは叶っている感じですか。

「レベルの高いところで野球をやりたいと思い、中学では新潟シニアに入って野球をやりました。1、2年のときは目標がなかったんですけど、泉貴之監督に『140キロ投げられるぞ』と言われたんです。それから全国大会で140キロ台のボールを投げることが目標になり、中学3年のときに達成できました。自分を必要としている学校に行きたい、と思っていたところで日本文理の大井道夫監督が誘いに来てくれました。新潟の高校生で150キロを投げた投手がいないというのは分かっていたし、新潟の代表が甲子園で優勝したこともない。じゃあそれを目標にしようと、日本文理に入りました。甲子園では結果が出せなかったけど、150キロは春の県大会で出せた。そしてドラフトで指名されて。達成できないものもあるけど、目標を追いながらここまで来られました」

―高校野球生活は満足していますか。

「高校日本代表に入れなかったことと、全国制覇できなかったことが残念です。達成できなかった目標が半分ある感じですね」

―プロに入ってからは、日本代表と優勝が目標ですか。

「そうですね。チームを日本一に導ける投手になりたいですね。それと、同世代の選手には負けたくないです。大阪桐蔭の根尾昂君（中日1位）、藤原恭大君（ロッテ1位）、金足農の吉田輝星君（日本ハム1位）。甲子園で活躍した選手のことは意識します。今年の夏も自分が出ていれば…という気持ちがあるので」

―彼らよりも早く1軍で結果を出したいと。

「それもありますが、最後に勝っていればいいと思います。プロでの最終成績や、チームの優勝回数とか。それを目標にします。僕は負けず嫌いなので」

Be a challenger. 挑戦者であれ

profile 鈴木裕太（すずき・ゆうた）◉2000年8月2日生まれ、新潟市出身。東青山小2年で野球を始める。小針中では新潟シニアに所属。日本文理高では1年の春からベンチ入り。今春の県大会準々決勝上越高戦で県内高校公式戦では初の球速150キロをマーク。182cm、87kg。右投げ右打ち。

STANDARD SPECIAL

特集・全国高校サッカー新潟県大会

新潟進撃

イレブンの咆哮

第97回全国高等学校サッカー選手権大会
（2018年12月30日～2019年1月14日）の本戦出場をかけた県大会。
実力校がしのぎを削った準決勝（11月4日）、
そして雌雄を決した決勝（同11日）の様子を振り返る。
また、県大会と北信越大会を勝ち抜き、
第27回全日本高等学校女子サッカー選手権大会
（2019年1月3日～1月13日）への出場を控えた2校に迫った。

撮影◉嶋田健一

スポーツ各界展望

Standard Eyes

新潟から未来を創れ

新潟県出身、または新潟にゆかりのある注目アスリートに迫る「Standard Eyes」。
日本中を駆け回る選手あり、世界を股にかける選手あり、そして将来が楽しみな選手あり。
私たちの身の回りは、かくも多くの素晴らしいアスリートであふれている。